

武蔵工業大学後援会誌 [マイコム]

M/-COM

no. 32 2005.8

後援会会長挨拶……………p1

平成17年度 評議員会が開催される……………p2

平成16年度 事業報告……………p3

平成16年度 決算書……………p5

平成17年度 事業計画……………p6

平成17年度 予算……………p7

平成17年度 役員・評議員……………p8

平成16年度 「課外活動に対する補助」による援助……………p9

Campus Topics……………p11

平成17年度 「大学と父母との連絡会」のお知らせ……………p15

写真：平成17年度 体育祭



後援会会長挨拶



武蔵工業大学後援会会長

相模 静夫

モノもコトもまとめて

学生時代は、バリバリの体育会系に打ち込んでいました。
陸上100m走スタート直前、心臓が破裂しそうな位のドキドキする緊張感や
ラグビーのキックオフ直前の足が地に着かないほどにピリピリ張り詰めた緊迫感、
勝った負けたの修羅場を潜り抜けるにつれて、今日はやるぞ、ボールよ俺のところに来いという
ワクワクする期待感等が懐かしく思い出されます。

修羅場を潜り抜けるタフネスと、概念構築能力をあわせもった人材を、
「知的体育会系」と野中郁次郎氏は呼んでいます。
今後のグローバルな社会、そこでは、益々新たな知を生み出して行く必要があります。

最近(2005/6/10)の新聞報道で、「米国、特許先願主義へ機運高まる」がありました。
ご存知のように、米国は「先発明主義」で、日欧をはじめ世界の大勢は「先願主義」です。
経済のグローバル化に伴い、特許の国際出願が急増し、米企業にも国際出願に伴う事務コスト負担が大きく、
それらを軽減する狙いで、1国で特許が認められれば
他国でもほぼ自動的に同等な権利が保障されるシステムを提唱し、
先願主義への移行をMS/IBM/Apple/インテル等のIT企業が率先して議会へ呼びかけているわけです。

その背景には、グローバルな知的産業の台頭は、
「資本を所有出来ない資本主義(米経済学者レスター・サロー):人や知識を囲い込むことは難しいが、
活かし方によっては大きな成果を生む」という状況変化があります。
これは経営の問題で、特許なら囲い込みが出来、ビジネスの切り札にもなるわけです。
特許制度の国際統一化に則り、低コストで早く多くの国際特許を獲得するかで
米国SW業界の動きが活発になってきています。
これは、日米欧が同じ土俵で戦える点で良いことだと私は思います。

武蔵工大は、昨年創立75周年を過ぎ、5万人強の卒業生が、世界中で活躍されています。
環境情報学部も充実し、従来から強みを発揮していた「モノ作り」に加えて「コト(知、概念)作り」にも
優秀な人材の輩出と世界での活躍、そしてモノもコトもまとめて特許出願出来る人材育成を
武蔵工業大学にお願いし、後援会としては全面的に支援を図って行く所存です。

「知力・気力・体力・迫力その他もろもろのパワーをふんだんに駆使して、
何事にも前向き、それでいて、礼で始まり、礼で終わる」武蔵工大さわやかな「知的体育会系」に期待します。

*** 平成17年度 評議員会が開催される ***

武蔵工業大学後援会の平成17年度評議員会が平成17年5月28日(土)午後2時45分から世田谷キャンパス3号館311教室において役員、評議員127名(うち委任出席37名)の出席のもとに開催されました。

評議員会は相模会長の開会の挨拶で始まり、役員及び今年度新しく評議員に就任された27名の方々が紹介された後、議事に入りました。議事は事務局から第1号議案から各議案ごとに提案説明され、その後、この説明に基づいて審議され採決の結果、次の議案が原案の通り可決、承認されました。

武蔵工業大学後援会平成17年度評議員会

平成17年5月28日(土)
世田谷キャンパス311教室(五島記念館1F)

1.開会の辞 相模会長

2.報告事項

平成17年度後援会入会者数及び会員数について

3.議 事

第1号議案 平成16年度 事業報告について

第2号議案 平成16年度 決算報告について

2-1 平成16年度 決算報告

2-2 緊急奨学金特別会計決算報告

第3号議案 平成17年度 事業計画(案)について

第4号議案 平成17年度 予算(案)について

4-1 平成17年度 予算(案)

4-2 緊急奨学金特別会計予算(案)

第5号議案 平成17年度 役員候補者について

第6号議案 武蔵工業大学後援会会則の変更(案)

4.そ の 他

5.閉会の辞 神山副会長



※ 中村英夫学長からの挨拶



※ 議事進行を務める相模会長と浅野学生部長、湯本顧問代行



※ 審議風景(311教室にて)

1

事業

1. 正課外教育援助

課外活動援助

- 学生団体連合会への援助
学生団体連合会への課外活動の援助金として
17,210,000円を援助（平成16年7月9日・10月14日）
- 学科研究会等に課外活動援助金として400,000円を援助
（平成16年10月29日）
- 「課外活動に対する補助制度」により第1回、第2回、第3回
合計45件、総額 6,432,447円を援助
第1回 平成16年7月8日 7団体（12件）
第2回 平成16年11月17日・25日 11団体（15件）
第3回 平成17年1月19日・2月1日 15団体（18件）

〈主な援助〉

- (1) 試合結果が優秀につき奨励補助としてラグビー部、硬式庭球部、準硬式野球部、航空研究部、等に対し援助を行った
- (2) ワンダーフォーゲル部、アメリカンフットボール部等に加入保険の補助を行った
- (3) 学生団体連合会、学生団体連合会横浜分室に対し、印刷機及びパソコンの購入のための補助を行った
- (4) 放送会に対し、行事記録用ビデオ編集機器購入のための補助を行った
- (5) ラグビー部、航空研究部に対し全国大会への出場経費の一部補助を行った
- (6) 新聞会に対し、全国大会出場団体取材のため、取材費用の援助を行った
- (7) アイスホッケー部、水泳部等の練習所確保のための学外施設使用料の補助を行った
- (8) ハワイアンクラブ、PLAMに対し、演奏会会場費の補助を行った
他

●学生行事に対する援助

- (1) スプリングフェスティバルへの援助
- (2) 文化団体連合会主催のミュージックフェスティバルの運営費を援助
- (3) 体育会主催のナイトラリーの運営費を援助
- (4) 国際交流チャリティーコンサートへの援助

●強化団体指定による援助

平成16年度の強化団体として指定したラグビー部、アメリカンフットボール部、アイスホッケー部、及びハンドボール部に対し、チーム強化のための資金を援助

●その他の援助

シャトルバス運行の援助



ミュージックフェスティバル

学生顕彰

- 大学の学生表彰（学長賞、学生部長賞、課外活動奨励賞）のうち、課外活動奨励賞を授与し、副賞を贈呈
- 在学中、課外活動に貢献した学生を選考し、21名に「後援会長賞」を授与・表彰

〈平成16年度「後援会長賞」受賞者〉

氏 名	所 属	主 な 功 績
岸野 浩之	機械	文化団体連合会本部長
菊地 辰矢	機械	ハンドボール部主将
森 渉	機械	学生団体連合会副執行委員 MI-TECH横浜祭実行委員会委員長 体育会本部渉外
中山 元	機械システム	機関会会長
玉田 智行	電気電子	放送会会長
下田 将史	電気電子	ラグビー部主将
藤本 高広	電気電子	同好会連合会長 デラバージュスキー同好会会長
鎌田 智彦	電子通信	M.F.A.会長
富田 省吾	電子通信	ラグビー部主将
北 健太	電子情報	放送会会長
棚木 良規	建築	文化団体連合会本部長・副本部長
鳥居 学	建築	アメリカンフットボール部主将
渡辺 大輔	土木	体育会本部書記 テニス部主将
飯島 悠也	土木	体育会本部長
大矢 寛之	経営	M.F.A.会長
日下部 裕美	経営	吹奏楽団団長
清水 伸一郎	経営	学生団体連合会執行委員長
安藤 博隆	環境情報	学生団体連合会横浜分室分室長
須藤 雄介	環境情報	学生団体連合会横浜分室執行委員 空手道部主将
森本 亘	環境情報	アイスホッケー部主将
柳川 順子	環境情報	Y.F.A.副会長

学生の生活指導に対する援助

- 全学生団体を対象に「救命講習会」の受講を義務付けさせ、その受講費用を援助（1団体1名を義務付け、58名が参加）
- リーダーズ研修会における「テーピング講習会」実施に対し、援助

2. 「大学と父母との連絡会」の共催

- 全国26会場で開催された「大学と父母との連絡会」の費用の一部を負担
- 大学会場（世田谷・横浜）においては相模会長が後援会を代表して挨拶（平成16年9月25日）、地方会場においては、評議員の方々に会の運営等にご協力をいただいた

3. 大学行事への援助と協力

- 平成16年度入学式に川端会長が来賓として出席し祝辞（平成16年4月2日）
- 体育会主催の体育祭への援助（平成16年5月）
- 学生団体連合会主催によるMI-TECH横浜祭の運営資金を援助（平成16年6月）
- 学生団体連合会主催によるMI-TECH祭の運営資金を援助（平成16年10月）

- 平成16年度学生表彰授賞式に相模会長が出席し、課外活動奨励賞を授与(平成17年2月22日)
- 平成16年度学位授与式に相模会長が来賓として出席し、「後援会長賞」を授与(平成17年3月19日)



学生表彰授賞式

4.学生厚生援助

- オープンカフェパラスolデッキのメンテナンス

5. 会報の発行

- 後援会の会誌「MI-COM30号」を刊行し、会員へ送付(平成16年8月)
- 後援会の会誌「MI-COM31号」を刊行し、会員へ送付(平成17年1月)

6.新入生研修行事(フレッシュマン・キャンプ)に対する援助

平成16年4月7・8日(工学部・環境情報学部)に実施された新入生を対象とした研修行事に対して援助

7.就職活動に対して援助

- 進路・就職適性検査「自己発見レポート」(1年)、「自己プログレスレポート」(2年)及び「日経学生経済常識テスト」(3年)を実施

8.後援会緊急奨学金

会員の家計急変により学業の継続が困難な学生に対して授業料相当額(全額又は半額)を貸与する緊急奨学金は、平成16年度は、2名に対し総額1,880,000円を貸与(平成16年11月18日)

9. 後援会案内等の送付

- 平成17年度各入学試験合格者の合格通知に後援会パンフレットを同封して発送
 - ・一般入試(前期) 平成17年2月10日(環) 平成17年2月12日(工)
 - ・センター試験利用入試 平成17年2月10日(環) 平成17年2月12日(工)
 - ・一般入試(後期) 平成17年3月4日(工・環)

10. その他

- 大学へ「課外活動奨励賞」の候補者の推薦依頼
- 大学へ「後援会長賞」の候補者の推薦依頼
- 在学生配布用75周年記念出版図書の補助

②

運 営

1. 理事会(2回)

- 平成16年5月15日(土)
 - 第1号議案 平成15年度 事業報告について
 - 第2号議案 平成15年度 決算報告について
 - 2-1 平成15年度決算報告
 - 2-2 緊急奨学金特別会計決算報告
 - 第3号議案 平成16年度 事業計画(案)について
 - 第4号議案 平成16年度 予算(案)について
 - 4-1 平成16年度予算(案)
 - 4-2 後援会緊急奨学金会計予算(案)
 - 第5号議案 平成16年度 役員候補者について
- 平成16年11月21日(日)
 - 第1号議案 平成16年度 後援会事業経過について
 - 第2号議案 後援会の次年度に向けての運営について
 - 2-1 平成17年度 後援会主要会議等予定(案)
 - 2-2 平成17年度 後援会役員、評議員構成(案)
 - 第3号議案 武蔵工業大学後援会会則の変更(案)について
 - 報告事項 1.平成16年度 「大学と父母との連絡会」の結果について

2. 評議員会(1回)

- 平成16年5月29日(土)
 - 第1号議案 平成15年度 事業報告について
 - 第2号議案 平成15年度 決算報告について
 - 2-1 平成15年度決算報告
 - 2-2 緊急奨学金特別会計決算報告
 - 第3号議案 平成16年度 事業計画(案)について
 - 第4号議案 平成16年度 予算(案)について
 - 4-1 平成16年度予算(案)
 - 4-2 後援会緊急奨学金会計予算(案)
 - 第5号議案 平成16年度 役員候補者について

なお、当日は評議員会に先立って、新たにお願ひする評議員の方々の学内見学を行い、また評議員会終了後には、大学教職員との懇談会を開催した

3. 会計監査

平成16年4月24日(土)
高橋、久保木両会計監査により、平成15年度の会計監査を実施

4.その他

後援会事務担当者の採用(専任・アルバイト 平成16年4月～平成17年3月)

＜平成17年度後援会会員数＞(平成17年5月2日現在)

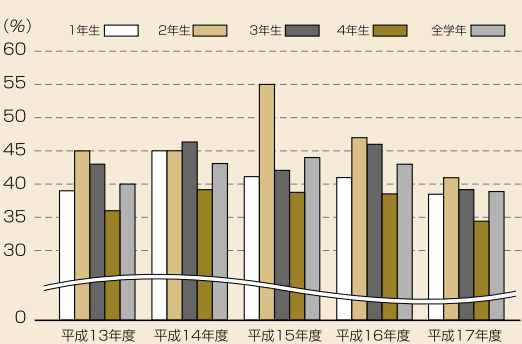
●学部

学年	工 学 部										環境情報学部	合計
	機械	機械システム	電気電子情報	電子通信	コンピュータ	都市基盤	システム情報	環境エネルギー	環境情報	情報メディア		
1年生	125	108	105	91	101	117	102	96	80	197	210	1332
2年生	114	111	106	100	106	123	107	106	79	194	231	1377
3年生	119	104	113	106	85	127	104	117	57	192	241	1365
4年生	120	107	132	110	79	133	123	133	60	218	237	1452
合計	478	430	456	407	371	500	436	452	276	801	919	5526

●大学院

専攻	工 学 研 究 科							環境情報学 研究科	合計
	機械	機械システム	電気	建築	都市基盤	経営	エネルギー		
修 博 合 計	37	37	128	37	37	26	32	23	357

＜過去5年間の在学生クラブ加入率＞



平成16年度 決算書

平成16年4月1日～平成17年3月31日

科 目	平成16年度 予算	平成16年度 決算	差 異	備 考
(収入 の 部)	(円)	(円)	(円)	
1. 会費	70,300,000	70,300,000	0	◎新入生の加入者
2. 雑収入	11,000	11,479	▲ 479	◎利息収入
3. 前年度繰越金	9,319,520	9,319,520	0	
収入の合計	79,630,520	79,630,999	▲ 479	
(支 出 の 部)				
事業費	62,712,000	57,285,410	5,426,590	
4. 正課外教育援助費	30,420,000	29,200,659	1,219,341	◎援助の内容については下表を参照
5. 父母連絡会費	4,200,000	4,147,781	52,219	◎全国各地で年1回大学と共催
6. 大学行事協力費	4,700,000	3,620,000	1,080,000	◎体育祭、MI-TECH横浜祭、MI-TECH祭等
7. 学生厚生援助費	2,000,000	157,500	1,842,500	◎厚生設備等への援助
8. 会報発行費	4,000,000	3,879,750	120,250	◎後援会広報誌の作成(2回)
9. 新入生研修行事費	11,392,000	11,392,000	0	◎全学的に行うフレッシュマンキャンプに係わる援助
10. 就職活動援助費	6,000,000	4,887,720	1,112,280	◎就職関連テスト等
運営費	8,850,000	7,949,166	900,834	
11. 事務費	4,800,000	4,605,313	194,687	◎人件費、事務委託費、消耗品費
12. 会議費	1,000,000	677,693	322,307	◎理事会、評議員会等
13. 印刷・通信費	1,300,000	929,295	370,705	◎通知、案内の郵送、印刷代
14. 旅費・交通費	1,600,000	1,712,760	▲ 112,760	◎地方評議員、役員の旅費
15. 備品費	100,000	0	100,000	◎後援会関係の備品、什器
16. 雑費	50,000	24,105	25,895	◎振込手数料等
予備費	4,000,000	4,511,427	▲ 511,427	◎慶弔費、75周年記念出版等
特別会計	4,000,000	4,000,000	0	
17. 後援会基本積立	0	0	0	
18. 記念事業費積立	4,000,000	4,000,000	0	◎大学創立記念事業協力
19. 学生事故対策援助費積立	0	0	0	◎学生事故対策として1,000万円まで積立完了
20. 特別課外活動援助費積立	0	0	0	◎大規模な対外遠征援助500万円まで積立完了
小 計	79,562,000	73,746,003	5,815,997	
次年度繰越金	68,520	5,884,996	▲ 5,816,476	
支出の合計	79,630,520	79,630,999	▲ 479	

※予算に対し決算が超過した場合に▲印を付した。

正課外教育援助費内訳

科 目	平成16年度 予算	平成16年度 決算	差 異	援 助 対 象
正課外教育援助費	30,420,000円	29,200,659円	1,219,341円	
課外活動援助費	29,220,000	28,355,363	864,637	◎(ア)(イ)(ウ)(エ)は「課外活動に対する補助制度」の費用 (オ)は強化指定団体制度により運用
内訳				
(ア)学団連援助	17,220,000	17,210,000	10,000	◎学団連、体育会・文化団体連合会、同好会連合、MI-TECH祭実行委員会、MI-TECH横浜祭実行委員会、吹奏楽団、放送会、新聞会
(イ)学科研究会等援助	400,000	400,000	0	◎学団連準加盟の学科研究会等各団体
(ウ)一般援助	7,500,000	6,432,447	1,067,553	◎課外研究、対外活動、情報収集活動、環境向上運動、 用具整備、特別企画、地域活動
(エ)学生行事援助	900,000	1,270,166	▲ 370,166	◎スプリングフェスティバル、ミュージックフェスティバル、ナイトラリー、国際交流チャリティコンサート等
(オ)団体強化援助	1,200,000	1,200,000	0	◎強化指定団体
(カ)その他の援助	2,000,000	1,842,750	157,250	◎シャトルバス援助
学生顕彰費	800,000	670,116	129,884	◎課外活動奨励賞、後援会長賞等
学生生活指導費	400,000	175,180	224,820	◎リーダー教育、救命講習会受講料援助、学生の国際交流指導等

緊急奨学金決算書

経 常 収 入 の 部	当期予算	当期実績
前 年 度 繰 越 金	9,349,557円	9,349,557円
緊急奨学金返済収入	3,629,000	2,485,500
利 息 収 入	50	78
経 常 収 入 計	12,978,607	11,835,135
経 常 支 出 の 部		
緊急奨学金貸付支出	2,680,000	1,880,000
貸 倒 損 失		
経 常 支 出 計	2,680,000	1,880,000
経 常 収 支	10,298,607	9,955,135



平成17年度 事業計画

1 事業

1. 正課外教育援助

学生の課外活動のより一層の活性化をはかるため、学生団体及び学生行事等に対して援助を行う

課外活動援助

「課外活動に対する補助制度」による援助を行う

- 学生団体連合会へ課外活動の援助金を支給
- 学生団体連合会へ準加盟の学科研究会の連合団体等へ組織運営のための援助金を支給
*以下の2項目の援助については、援助希望団体(個人)の申請に基づき、大学学生部の意見をを受けて決定
- 「課外活動に対する補助制度」による一般援助を行う
課外研究、対外活動、環境向上活動、情報収集活動、用具整備、特別企画、地域活動、活動奨励等
- 学生行事への援助を行う
スプリングフェスティバル、ミュージックフェスティバル、ナイトラリー、国際交流チャリティーコンサート、公開企画、特別行事等に対する援助
- 強化団体指定による援助を行う
関東リーグ相当クラスの上位リーグで活躍する団体に対して、チーム強化のための援助を行う(関東リーグ3部以上相当:関東ランキング24位前後以上を目安)
- その他の援助を行う
シャトルバス運行の援助

学生顕彰

- 課外活動奨励賞の授与
学生表彰授賞式において、課外活動奨励賞として、賞状及び副賞を授与
- 後援会長賞の授与
学位授与式(卒業式)において、課外活動に貢献した学生約20名を表彰し、賞状及び副賞を授与

学生生活指導

学生の生活指導に対する援助を行う



お知らせ

武蔵工業大学後援会
ホームページ随時更新!

本会のホームページはもうご覧になりましたか?本会の事業内容・活動状況をはじめ、MI-COM(マイコム)のバックナンバー等、武蔵工業大学後援会に関する様々な情報を掲載しております。内容の更新も随時行っておりますので、是非ご利用ください。

ホームページアドレス

<http://www.comm.musashi-tech.ac.jp/~kouenkai>



- 学生団体の責任者を対象とした「リーダーズ研修会」の費用の一部援助
- 安全教育として学生団体を中心に「救命講習会」の受講を義務付け、その費用を援助
- 学生(留学生含む)の国際交流活動に対し援助
- その他学生生活指導上必要とみとめられる事柄

2. 「大学と父母との連絡会」の開催

全国各地において「大学と父母との連絡会」を共催する

今年度は、本学会場(世田谷キャンパス・横浜キャンパス)を含め26会場で開催する

本学会場は、平成17年10月1日(土)を予定

3. 「役員・評議員と大学教職員との懇談会」の開催

平成17年5月28日(土)の評議員会終了後の懇談会にて大学教職員と後援会役員等と歓談する

4. 大学行事への協力

大学及び学生が主催する大学行事、企画への援助協力を行う(体育祭、MI-TECH横浜祭、MI-TECH祭)

5. 学生厚生援助

学生の厚生施設・設備の充実のための援助を行う(学生利用施設)

6. 会報の発行

後援会の会誌「MI-COM」を年2回発行し、学内の動きを父母に連絡するとともに、誌面を通して会員相互の親睦をはかる

7. 新入生研修行事(フレッシュマン・キャンプ)への援助

毎年4月に実施する新入生対象のフレッシュマン・キャンプへの援助を行う

8. 就職活動に対して援助

進路・就職適性検査「自己発見レポート」(1年)、「自己プロGRESSレポート」(2年)及び「日経学生経済常識テスト」(3年)を実施する

9. 緊急奨学金の貸与

会員の家計の急変により学業の継続が困難な学生に対し、授業料相当額(全額又は半額)を貸与する

2 運営

1. 会議

理事会 2回 平成17年5月14日(土)、11月19日(土)予定
評議員会 1回 平成17年5月28日(土)

2. その他

後援会事務担当者の採用(専任・アルバイト 平成17年4月1日～平成18年3月31日)

平成17年度 予算

科 目	平成17年度予算	備 考
(収 入 の 部)	(円)	
1. 会費	67,010,000	◎新入生の加入者
2. 雑収入	15,000	◎利息収入
3. 前年度繰越金	5,884,996	
収入の合計	72,909,996	
(支 出 の 部)		
事業費	59,920,000	
4. 正課外教育援助費	31,000,000	◎援助の内容については下表を参照
5. 父母連絡会費	4,200,000	◎全国各地で年1回大学と共催
6. 大学行事協力費	2,800,000	◎体育祭、MI-TECH横浜祭、MI-TECH祭等
7. 学生厚生援助費	1,000,000	◎厚生設備等への援助
8. 会報発行費	4,000,000	◎後援会広報誌の作成(2回)
9. 新入生研修行事費	10,920,000	◎全学的に行うフレッシュマンキャンプに係わる援助
10. 就職活動援助費	6,000,000	◎就職関連テスト等
運営費	8,650,000	
11. 事務費	4,700,000	◎人件費、事務委託費、消耗品費
12. 会議費	800,000	◎理事会、評議員会等
13. 印刷・通信費	1,200,000	◎通知、案内の郵送、印刷代
14. 旅費・交通費	1,800,000	◎地方評議員、役員の旅費
15. 備品費	100,000	◎後援会関係の備品、什器
16. 雑費	50,000	◎振込手数料等
予備費	300,000	◎慶弔費等
特別会計	4,000,000	
17. 後援会基本積立	0	
18. 記念事業費積立	4,000,000	◎大学創立記念事業協力
19. 学生事故対策援助費積立	0	◎学生事故対策として1,000万円まで積立完了
20. 特別課外活動援助費積立	0	◎大規模な対外遠征援助500万円まで積立完了
小 計	72,870,000	
次年度繰越金	39,996	
支出の合計	72,909,996	

正課外教育援助費内訳

科 目	平成17年度予算	援 助 対 象
正課外教育援助費	31,000,000円	
課外活動援助費	29,800,000	◎(ア)(イ)(ウ)(エ)は「課外活動に対する補助制度」の費用 (オ)は強化指定団体制度により運用
内訳		
(ア) 学団連援助	17,500,000	◎学団連、体育会・文化団体連合会、同好会連合、MI-TECH祭実行委員会、MI-TECH横浜祭実行委員会、吹奏楽団、放送会、新聞会
(イ) 学科研究会等援助	400,000	◎学団連準加盟の学科研究会等各団体
(ウ) 一般援助	7,500,000	◎課外研究、対外活動、情報収集活動、環境向上運動、用具整備、特別企画、地域活動
(エ) 学生行事援助	1,300,000	◎スプリングフェスティバル、ミュージックフェスティバル、ナイトラリー、国際交流チャリティーコンサート等
(オ) 団体強化援助	1,200,000	◎強化指定団体
(カ) その他の援助	1,900,000	◎チャトルバス援助
学生顕彰費	800,000	◎課外活動奨励賞、後援会長賞等
学生生活指導費	400,000	◎リーダー教育、救命講習会受講料援助、学生の国際交流指導等

緊急奨学金予算書

経 常 収 入 の 部	当 期 予 算
前 年 度 繰 越 金	9,955,135円
緊急奨学金返済収入	3,791,000
利 息 収 入	80
経 常 収 入 計	13,746,215
経 常 支 出 の 部	
緊急奨学金貸付支出	2,680,000
貸 倒 損 失	
経 常 支 出 計	2,680,000
経 常 収 支	11,066,215



平成17年度 役員・評議員



役員（敬称略）

会長	相模 静夫	経営工学	（再）
副会長	神山 次郎	電気工学	（再）
副会長	千田 哲也	機械システム工学	（再）
会計監査	辻 定彦	電気工学	（再）
会計監査	岡野 雄治	システム情報	（再）
理事	佐丸 雄治	都市基盤工学	（再）
理事	松居 正	電気電子	（再）
理事	野口 雅人	機械	（再）
理事	稲岡 一義	機械システム	（再）
理事	桑名 好治	機械システム	（再）
理事	松井 敏明	電気電子	（再）
理事	榎本 英雄	電子通信	（再）
理事	村井 和夫	エネルギー基礎	（再）
理事	井澤 邦輔	環境情報	（再）
理事	石戸谷 重徳	機械	（再）
理事	近藤 亮平	機械システム	（再）
理事	森谷 正彦	電気電子情報	（再）

理事	角田 孝	コンピュータ・メディア	（再）
理事	河村 光治	建築	（再）
理事	廣川 輝誉嗣	建築	（再）
理事	長崎 俊夫	システム情報	（再）
理事	櫛山 和彦	情報メディア	（再）
理事	宮崎 尚	機械	（新）
理事	羽室 俊昭	電気電子情報	（新）
理事	落合 勇	電子通信	（新）
理事	山藤 幹夫	コンピュータ・メディア	（新）
理事	井上 淳	環境エネルギー	（新）
理事	阿部 賢一	環境情報	（新）
理事	野村 侃彦	情報メディア	（新）

顧問 学長 中村 英夫



評議員（敬称略）

川村 潤	東京都	機械工学	（再）
高島 和憲	東京都	機械工学	（再）
阿部 栄一	神奈川県	機械システム工学	（再）
磯部 義久	静岡県	エネルギー工学	（再）
税所 廣志	宮崎県	電気工学	（再）
笠原 徹	神奈川県	都市基盤工学	（再）
安田 一行	福岡県	電子通信	（再）
江森 則雄	東京都	機械	（再）
榎本 稔	京都府	機械システム	（再）
木村 喜一	埼玉県	電気電子	（再）
長尾幸次郎	岡山県	電気電子	（再）
沼田 実	青森県	電子通信	（再）
桑田 哲夫	東京都	電子情報	（再）
後藤 達也	宮城県	電子情報	（再）
中野 英一	大分県	電子情報	（再）
川本 裕資	群馬県	建築	（再）
香西信一郎	千葉県	建築	（再）
中村 秀文	神奈川県	建築	（再）
前田 稔	神奈川県	都市基盤	（再）
増田 和茂	東京都	都市基盤	（再）
皆川 勇治	新潟県	エネルギー基礎	（再）
天野彊二郎	埼玉県	環境情報	（再）
渡部 正博	北海道	環境情報	（再）
稲垣 公一	静岡県	情報メディア	（再）
高田 育紀	栃木県	情報メディア	（再）
水野 博次	神奈川県	機械	（再）
磯貝 興作	広島県	機械	（再）
神谷 哲夫	愛知県	機械	（再）
寺島 宏	長野県	機械システム	（再）
福永 徹	鹿児島県	電気電子情報	（再）
玉浦 裕	東京都	電子通信	（再）
石丸 栄一	福岡県	コンピュータ・メディア	（再）

猪熊 康夫	静岡県	コンピュータ・メディア	（再）
田内 純吉	高知県	建築	（再）
中村 誠一	宮崎県	建築	（再）
菅原 次郎	神奈川県	都市基盤	（再）
関根 孝夫	埼玉県	都市基盤	（再）
横松 宏明	栃木県	都市基盤	（再）
望月 俊治	山梨県	システム情報	（再）
赤羽 功司	東京都	環境エネルギー	（再）
永田 豊	千葉県	環境エネルギー	（再）
右近 義隆	東京都	環境情報	（再）
広瀬 春彦	神奈川県	環境情報	（再）
杉野栄太郎	神奈川県	情報メディア	（再）
関本 準一	新潟県	情報メディア	（再）
岡野利喜造	群馬県	機械	（再）
木下 真一	神奈川県	機械	（再）
森嶋 信夫	石川県	機械	（再）
小林 紀夫	東京都	機械システム	（再）
内藤 節雄	徳島県	機械システム	（再）
菱沼 行男	茨城県	機械システム	（再）
古屋 優	東京都	電気電子情報	（再）
山田 昌義	静岡県	電気電子情報	（再）
伊藤 俊郎	宮城県	電子通信	（再）
中村 研八	東京都	電子通信	（再）
阿部 正	秋田県	コンピュータ・メディア	（再）
大塚 弘一	長野県	コンピュータ・メディア	（再）
遠藤 國雄	福島県	建築	（再）
谷内 正建	神奈川県	建築	（再）
石澤 秀夫	栃木県	都市基盤	（再）
三井 勝巳	富山県	都市基盤	（再）
安藤 隆雄	大分県	システム情報	（再）
桜井富美夫	東京都	システム情報	（再）
杉本 貴英	神奈川県	環境エネルギー	（再）

堀内 和代	長野県	環境情報	（再）
堀口友四郎	神奈川県	環境情報	（再）
山村 雅之	東京都	情報メディア	（再）
稲瀬 彰	神奈川県	機械	（新）
高橋 正憲	東京都	機械	（新）
永田 浩二	鹿児島県	機械	（新）
林 秀寛	沖縄県	機械システム	（新）
室井 信一	東京都	機械システム	（新）
小野 浩孝	静岡県	電気電子情報	（新）
児玉 雅俊	東京都	電気電子情報	（新）
鈴木 正幸	静岡県	電気電子情報	（新）
関野 光久	神奈川県	電子通信	（新）
長谷川淳治	神奈川県	電子通信	（新）
江崎 長昭	神奈川県	コンピュータ・メディア	（新）
杉山 淳史	北海道	コンピュータ・メディア	（新）
堤 唯見	千葉県	コンピュータ・メディア	（新）
大谷 剛	東京都	建築	（新）
柳 邦宏	神奈川県	建築	（新）
寺澤 一郎	神奈川県	都市基盤	（新）
前田 仁	神奈川県	都市基盤	（新）
青沼 富重	長野県	システム情報	（新）
片山 勝美	愛知県	システム情報	（新）
久保田秀夫	東京都	システム情報	（新）
佐野 遵	神奈川県	環境エネルギー	（新）
佐々木知哉	東京都	環境情報	（新）
高瀬 経行	東京都	環境情報	（新）
持田 康	山梨県	環境情報	（新）
小林 裕	神奈川県	情報メディア	（新）
船田 紀明	神奈川県	情報メディア	（新）
森 恵次郎	神奈川県	情報メディア	（新）

※（新）は新任、（再）は再任

平成16年度「課外活動に対する補助」による援助

後援会の事業の一つに「課外活動に対する補助制度」があります。

これは学生が自主的な財源確保の努力をしつつも補助を受けることにより、特色ある活動や、より高レベルの活動が可能となり、キャンパスライフの充実に貢献することを期待して設けられているものです。

統括団体への援助

団体名	代表者名	申請件名	決定額
学生団体連合会	大野 崇志	今年度の本部及び傘下団体の活動費援助について	17,210,000
学科研究会連合等	須山 徹 中村 芽久美 上原 勝志 地主 真悟	今年度の本部及び傘下団体の活動費援助について	400,000

一般補助 第1回分

団体名	代表者名	申請件名	申請理由	決定額
学生団体連合会	大野 崇志	パソコンの購入	現在3台のパソコンを使用しているが、最も使用頻度の高いパソコンが老朽化し業務に支障をきたしている。ウイルス対策ソフトもインストール出来ない状況。新規購入の補助希望。	134,014
学生団体連合会 横浜分室	福地 正憲	新型PC導入費用の補助	2台のPCを所有しているが、1台は老朽化、もう1台は故障によりプリンターも使用できないため、活動に大変支障をきたしている。書類の作成、データ保存及び管理、日々のHP等による情報伝達活動に必要な不可欠である。補助希望。	214,800
新聞会	斉藤 修平	航空研究会出場の「第28回鳥人間コンテスト」取材の補助	7月31日・8月1日の2日間で行われる「第28回鳥人間コンテスト」に本学航空研究会出場が決定。その様子や結果を記録に収め全校に広報することは要務であるが、遠方滋賀県での大会のため費用捻出が困難。取材費の補助希望。	64,200
航空研究部	加藤 修三	第28回鳥人間コンテスト選手権大会出場	7月31日・8月1日、読売テレビ主催「第28回鳥人間コンテスト選手権大会」カプロベラ機部門」に出場することになった。当大会は出場希望者が多く、厳しい書類選考を通過した学生や社会人チームが参加している。	100,000
		第28回鳥人間コンテスト選手権大会選征費の補助	左記大会に出場するために交通費、輸送費、宿泊費等の選征費が必要。部員からの臨時徴収やOBからの寄付金を集めても不足の状態であり、補助希望。	438,600
		第3回モデルロケット大学別選手権大会定点着地競技 団体の部優勝	我が部ではロケット工学の基礎を学ぶためにモデルロケットの製作と打ち上げを行っている。毎年春に開催されるモデルロケット大学別選手権大会に今年も参加。見事優勝を果たした。	30,000
		第3回モデルロケット大学別選手権大会定点着地競技 個人の部準優勝	3月21日に開催された左記大会に今年は5大学24名が参加。定点着地競技において我が部の中島一が見事準優勝を果たした。部のモデルロケット研究に対する意欲がさらに向上し、部活動に大きな励みとなった。	
		第3回モデルロケット大学別選手権大会複合競技 団体の部準優勝	3月21日に開催された左記大会の複合競技 団体の部において我が部が準優勝を果たした。モデルロケット製作の総合的な技術が向上したためと考えられる。	
		第3回モデルロケット大学別選手権大会複合競技 個人の部準優勝	3月21日に開催された左記大会の複合競技 個人の部において我が部の加藤修三が準優勝を果たした。モデルロケットの滞空性能、定点着地性能、最高到達高度が総合的に優れているかを競う競技である。優勝者とは僅かの差であった。	
		個人部の準優勝		
アイスホッケー部	森 本 亘	年間リンク使用料の補助	ここ数年部員数が減少し、練習場使用料が高額なことから部員一人当たりの負担が多くなっている。スケートリンクでの練習を例年に比べ減らしてはいるが、2部昇格のためには今の練習量では足りないのが現状である。補助希望。	450,000
ヨット部	伊比 秀治	修理及び備品購入の補助	エンジンのピストンが1つ故障し機能しなくなったため春合宿を断念。マリナに修理を依頼。格安にて同型エンジンを譲っていただけたが、やはり高額であるため部費から支払うことはできない。また法定備品である消火器の期限切れや救命胴衣の新規購入等もあり厳しい状況である。補助希望。	349,900
アメリカンフットボール部	鳥 居 学	スポーツ保険料の負担・春季オープン戦レンタカー代及び防具購入費の補助	加入が義務付けられているスポーツ安全保険の年間掛け金が、1人当たり9,000円と最も高い。また春季オープン戦において、試合会場の他大学まで道具運搬のためトラックをレンタルしている。防具の老朽化等により新しい防具も購入。選手にとって大きな負担となっている。補助希望。	153,000
合 計		7団体	12件	1,934,514

一般補助 第2回分

団体名	代表者名	申請件名	申請理由	決定額
学生団体連合会	大野 崇志	印刷機リース代(5回目)	印刷機の継続利用。	210,420
		印刷機修理費用(機種:FR393)	排紙台の排紙フェンスが6月末に破損。大量印刷に支障をきたしている。修理代の補助希望。	16,700
		印刷機修理費用(機種:GR273)	10月に印刷物の読み取りが出来なくなり印刷が不可能となった。MI・TECH祭等で大量印刷が必要であり運営に支障をきたしている。修理代の補助希望。	14,000
文化団体連合会	渡辺 直明	パソコン購入	現在1台のパソコンを保有しているが、ホームページ開設で作業の分散化が必要となり緊雑時には個人パソコンを持ち込んで作業をしている状況である。円滑な運営のためにもう1台パソコンの導入が必要と思われる。予算の捻出が困難なため補助希望。	129,013
写真部	安光 友絵	大学創立75周年記念特別展示の補助	MI・TECH祭にて「大学創立75周年記念特別展示」を初めて屋外のサクラガーデンステージで行う。例年の教室展示に加えて行うため作成時間、経費共にかかり、補助希望。	30,000
鉄道研究部	大浦 宗幸	横浜祭参加のための一部経費補助	6月5・6日のMI・TECH横浜祭に参加。大レイアウトを用いたNゲージ模型体験運転や写真展示会等を実施し、親子連れの方々にもご好評を頂いた。しかし大レイアウトの輸送費等多額の出費を要した。活動を継続していくために一部経費の援助希望。	24,625
水泳部	下村 彩	交通費の補助	校舎改築によるプール取り壊しで、付属高校、大倉山高校での練習となった。練習場所までの交通費が必要となり、部員での負担が困難なため補助希望。	60,000
ラグビー部	下田 将史	理工系リーグ大会優勝	左記大会において全勝優勝を果たした。	100,000
硬式庭球部	榎本 大輔	関東理工科大学硬式庭球連盟第44回個人トーナメント大会女子ダブルス準優勝	左記大会において女子ダブルスが準優勝を果たした。今大会では昨年よりはるかに本戦出場者が増え、本学硬式庭球部の健在ぶりをアピールした。	20,000



ヨット部	伊比 秀治	修理及び備品購入に対する補助	マストを折るという事故により保険対象外でセールの修理も必要となった。船体の老朽化が進み、故障箇所がいたる所に出てきている現状の中、全修理費を部費から出すことは厳しい状態にある。補助希望。	58,850
準硬式野球部	川原 崎 徹	新関東大学準硬式野球連盟 春季リーグ戦2部優勝	平成16年度新関東大学準硬式野球連盟春季リーグ2部において優勝を果たした。	100,000
		新関東大学準硬式野球連盟 春季リーグ戦最優秀選手賞受賞	平成16年度新関東大学準硬式野球連盟春季リーグにおいて落合康（都市基盤2年）が個人タイトル、最優秀選手賞を受賞した。	10,000
		新関東大学準硬式野球連盟 春季リーグ戦最優秀投手賞受賞	平成16年度新関東大学準硬式野球連盟春季リーグにおいて川原崎徹（機械2年）が個人タイトル、最優秀投手賞を受賞した。	10,000
アメリカン フットボール部	鳥 居 学	スポーツ保険料の補助	財団法人スポーツ安全協会によるスポーツ安全保険の新入部員追加保険料が部員の負担となっている。毎月の部費からではリーグ戦参加費の一部充当にしかならず補助希望。	85,500
陸上競技部	永 村 賢司	関東身体障害者陸上競技協会 より感謝状贈呈	関東身体障害者陸上競技協会創立10周年にあたり、協会に協力した諸団体に感謝状の贈呈があった。贈呈は「関東身体障害者陸上競技選手権大会」と「東京車椅子マラソン大会」の競技に部員が参加し、大会運営に協力したことによる。	50,000
合 計		11団体	15件	919,108

一般補助 第3回分

回 体 名	代 表 者 名	申 請 件 名	申 請 理 由	決 定 額
学生団体連合会	大野 崇志	印刷機新規購入の補助	現在2台の印刷機を所有しているが、1台は購入後10年が経過。老朽化により修理費用が多額である上に、カードカウンターもなく印刷機管理が難しいのが現状である。ネットワークにも対応の高品質な印刷機の新規購入を考えている。補助希望。	851,550
学生団体連合会 横浜分室	福地 正憲	印刷機費用の補助(第5回目リース代)	印刷機継続利用の補助。	194,040
新聞会	手塚 裕則	ラグビー部の全国大会出場に 対する取材の補助	2005年1月2・4・6日に行われる「第55回全国地区対抗大学ラグビーフットボール大会」に本学ラグビー部の出場が決定。この部の活躍を記録に収め全校に広報することは要務である。試合会場が名古屋と遠方でありその費用を捻出することは困難なため、取材費の補助希望。	123,960
鉄道研究部	浅井 大介	機関誌「スチールカー」発行 について	当部の研究活動を知っていただくため、機関誌「スチールカー」を発刊し無料配布している。この発刊は一年間の研究成果をまとめたものであり当部の年間活動の一つである。今年度の年間テーマ「首都圏の鉄道貨物」は高い評価を得た。ページ数は100を越え写真代も多額である。部費で賄うには限界があり、補助希望。	30,000
ハワイアンクラブ	竹澤 正浩	ハワイアンクラブ演奏会の補助	他大学との交流を深め、部の活性化にもつなげようとの主旨の定期演奏会であるが、今回は4年生が研究室やその他の事情により3年以下10名で費用を分担することになった。限界があるため、補助希望。	100,000
柔道部	村岡 直樹	第36回東京理工科大学対抗 柔道大会優勝	東京電機大、法政大、東京理科大、武蔵工大で行われた第36回東京理工科大学対抗戦において優勝を果たした。	10,000
硬式野球部	小池 正裕	連盟費、分担金等の補助	我が部は10年近くになる試合用ユニフォームを着用。連盟からも注意を受けた。部員からの臨時徴収を考えているが新規購入は厳しい状況にあり、連盟費、分担金等の補助希望。	100,000
ワンダーフォーゲル 部	細谷 洋介	保険料の補助	我が部の活動場所は主に山岳となっており、危険を伴うものである。遭難などの万が一の事故に備え、特殊な保険への加入が必要不可欠である。保険料は年間1人あたり1万円弱と高額であり部費からの負担には限界がある。補助希望。	31,675
		関東学生ワンダーフォーゲル連盟 加盟金の補助	関東学生ワンダーフォーゲル連盟に加盟。他大学との交流、情報交換の場として積極的に利用している。技術向上のため、部員には連盟主催の講習会への参加を義務付けている。加盟金の支払いは部費からの負担だけでは限界があり、補助希望。	5,500
水泳部	下村 彩	冬期練習場レンタル料の補助	本学には屋内プールがないため、10月以降は辰巳国際水泳場と世田谷区立総合運動場内のプールを練習場として使用。1回あたりの使用料が6,400円と6,000円のため、部費、部員からの臨時徴収では全て払うことができず、補助希望。	55,000
ラグビー部	下田 将史	全国地区対抗予選全勝優勝	9月から行われた全国地区対抗予選において全勝優勝を果たした。	100,000
		全国地区対抗 ラグビーフットボール大会出場	地区対抗予選において全勝優勝し、2005年1月2日からの全国地区対抗ラグビーフットボール大会に出場決定。宿泊費、交通費、備品等の補助希望。	1,449,000
硬式庭球部	榎本 大輔	男子理工系リーグ 1部昇格	関東理工科大学硬式庭球連盟による 平成16年度理工系リーグにおいて男子2部3戦全勝優勝。1部との入替戦において勝利し、1部昇格を果たした。	100,000
		女子理工系リーグ 8部昇格	関東理工科大学硬式庭球連盟による 平成16年度理工系リーグにおいて女子9部3戦全勝優勝。8部との入替戦において勝利し、8部に3年連続となる昇格を果たした。	100,000
ヨット部	伊比 秀治	特別経費の補助	練習中にマストが折れたり台風によりマストに被害を受けたりと、今年度は様々なトラブルに遭遇。修理費を部費から捻出しているが、保険料に関しては困難な状況である。補助希望。	88,600
アメリカン フットボール部	鳥居 学	秋季リーグ戦参加に伴う 登録費等の補助	秋季リーグ戦参加に伴い、関東大学アメリカンフットボール連盟に対し連盟費、選手・マネージャー・コーチの登録費等多額の費用を要した。また今年は大井第二球場、等々力競技場でも行われたため、公共会場の使用料60,000円が必要と思われる。補助希望。	80,000
ゴルフ部	望月 嵩仁	関東大学秋季Eブロック対抗戦優勝	秋季団体戦Eブロック大会において優勝し、EブロックからDブロックに昇格。	100,000
音楽同好会 PLAM	成瀬 真一	音楽イベントのレンタルホール代の 一部補助	2004年12月4日、5回目となるYC最大の音楽イベント「YC-Rock festival」を行った。YC初の文化団体連合会への準加盟が決まっており、今後も活発にイベント企画を考えている。補助希望。	59,500
合 計		15団体	18件	3,578,825

☆ 「羽田空港第2ターミナル」など歴史的建造物を設計 中園正樹氏特別講演会開催 ―若人よ、もっと熱くなれ―

2005スプリングフェスティバル ●平成17年4月2日(土)

FIFAワールドカップの決勝戦会場や、首都東京の玄関「羽田空港第2ターミナル」など、歴史的建築作品を数多く手掛ける中園正樹氏。講演会では、ご自身の建築家としての業績、話題沸騰した羽田ターミナルの概要、そして大学生活の心構えなど、スライドショーを用いながら、分かりやすくお話くださいました。ここでは、“母校”の新入生に向けた情熱的なエールの中から、とくに心に残る部分を、ダイジェストでお届けします。



■中園正樹氏プロフィール

1942(昭和17)年兵庫県神戸に生まれる。1964(昭和39)年、武蔵工業大学建築学科を卒業し、国内屈指の建築設計事務所(株)松田平田設計に就職。現在、代表取締役社長を務める。日本初のショッピングセンター「玉川高島屋」や、大学・専門学校のキャンパスデザイン、金融機関各社の電算センター、日韓共催FIFAワールドカップの決勝会場として知られる「横浜国際総合競技場(現・日産スタジアム)」など、これまでに手掛けた著名な建築設計作品は枚挙にいとまがない。2003年12月に開業した東京国際空港(羽田)「第2旅客ターミナルビル」は、その斬新なコンセプトが大きな話題を呼んだ。現在も北京オリンピックの馬術競技場の設計・監理を進めるなど、世界規模で活躍する本学卒業生である。



●東京国際空港(羽田)
第2旅客ターミナルの
チェックインロビー



●同じく羽田の「ライトコーン」。
この作品の象徴的なデザインだ



●羽田の建築中、施主に現場を案内する中園氏。
右横は著名な日本画家、千住博氏。
羽田の事は画伯とのコラボレーションで進められた



●羽田のプロジェクトでは、
膨大な模型が制作された

私は昭和39年に武蔵工業大学の建築学科を卒業し、創業昭和6年という歴史を誇る建築設計事務所(松田平田設計)に就職しました。巡り合わせがよかったのか、幸いその組織の長となり、現在では一級建築士約200名を含む400名ほどの大所帯を動かしています。建築家としての初仕事は、玉川学園にあった保険会社研修施設のクラブハウス棟でした。入社1年目の抜擢だったのですが、これは学生時代の先生から「頭なんか後でいいから、早く手を動かせる人間になれ」と指導され、自分の頭の中にあるイメージを、素早く絵に描く、形にするという訓練ができていたからだと思います。その建物は残念ながら現存しておりませんが、後にデザインに関わった玉川高島屋は、40年近く経った今も、その趣をしっかりと残しています。若いときの作品を見られるのは、嬉しいことです。

松田平田設計では金融機関の仕事が主だったのですが、バブル経済がはじけてからは公共の仕事に打って出ようということで、そのひとつとして横浜の国際総合競技場を手掛けました。国内最大7万2000人を収容するこのスタジアムは、サステナブル(持続可能)な建築を目指したため、保守管理が容易でコンサバティブなデザインとしました。また、北京オリンピック馬術競技場の国際コンペでは、東京競馬場や中山競馬場などを設計したノウハウを生かして、将来

的に競馬場として使用できる提案を行い、見事に当選いたしました。

みなさんご存じの東京国際空港第2旅客ターミナルビルも、国際コンペでした。600mも続く到着コンコースや、空の灯台と呼ばれるライトコーンなど、随所に独創的なアイデアを盛り込み、建物全体が上空から見ると飛行機のプロペラに見えるよう工夫しました。もちろん、数々の仕事の中には、世の中に出なかった作品もあります。岡山と千葉のサッカー競技場がその代表でしょう。コンペには勝ったものの、結局FIFAを招聘できず、計画自体が中止になりました。機会があればこのアイデアを実現したいと思います。

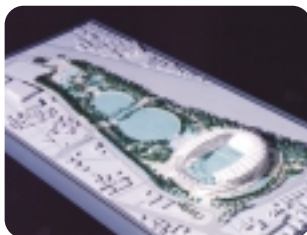
こんな私ですが、高校時代は工業系にも建築にも興味がありませんでした。ただ、模型を作ったり、絵を描くのがすごく好きだったのです。自宅から近い武蔵工大に入ったら、父親が「自転車を買ってやろう」と言うものですから、それに釣られて入学してしまった(笑)。ですから、学生時代はほとんど勉強せず、体育会のバスケット部でひたすら汗を流していました。建築にはあまり目を向けず、脇道の部分、遊びの部分に精一杯力を注いでいたのです。私は皆さんに「歯を食いしばって遊べ」と申し上げましょう。遊びを通じて、発想する力や柔軟性が鍛えられるのです。ダーウィンが「種の起源」にこう記しています。「地球上の生き物は、すべて生き残るチャンスを求めて進化

していく」と。最も強いもの、賢いものが生き残るのではありません。最も変化に適応できる、柔軟性に富んだものが進化し、生き残っていくのです。本学の卒業生は賢く、パワーもある。ぜひそこに柔軟性を加えてください。もちろん、どんな所に出ても、基礎力が必要ですから、その訓練だけはしっかりやることが重要です。

企業のトップとして私がどんな人を求めているか最後にお話ししておきます。採用に際しては、頭の良さに加え、感性、精神力、行動力、さまざまな能力を勘案します。しかし、私が最も大切だと考えるのは、「やる気」です。どうか貴重な学生時代を「熱く」過ごして、世の中に強烈なインパクトを与える人になってください。



●横浜国際総合競技場（現・日産スタジアム）。建築業協会賞・日本建築学会賞業績部門を受賞した



●岡山操車場跡地に建設が予定されていたサッカー場。残念ながら日の目を見なかった



●こちらも建築に至らなかった作品。非対称の独創的なデザインを持つ千葉県のサッカースタジアム



●沸き上がるアイデアは、スケッチ帳に描かれ、やがて現実の建築物となる



●秋田県立大学の本庄キャンパス。中園氏は学校のデザインも多数手掛けている



●北京オリンピックの馬術競技場。将来的に競馬場とする提案が国際コンペを勝ち抜いた

☆フレッシュマンキャンプレポート ●工学部電気電子情報工学科 1年次クラス担任 和多田雅哉

新入生を対象として各学部・学科において例年実施されているフレッシュマン・キャンプは、本年は4月7日（木）・8日（金）の2日間にわたって実施され、電気電子情報工学科では、長野県茅野市の蓼科温泉郷において開催いたしました。本学科のフレッシュマン・キャンプは、学友や教員との親睦をはかり、本学における学生生活を豊かなものにすることを目的とし、新入生同士「お互いを、知り、認め合い、助け合う。」ことをスローガンに、学生生活をスムーズにスタートさせることに主眼を置いてすすめました。

1日目は下諏訪体育館に到着後、スポーツ大会で研修会がスタートしました。スポーツ大会は、ドッジボールに始まり、自己紹介ゲーム、尻尾取りゲームへと進み、初めはバラバラだったチームも最後には勝利へ向かって一致団結するなど、大いに盛り上がりました。大会終了後は優勝チームの表彰、尻尾取りゲームの「サバイバル王」「撃墜王」の表彰があり、豪華?商品を手にした者は一喜一憂していま

した。その後、宿泊先の「ホテル親湯」に移動し、入浴・夕食後に全体研修、グループミーティングを行いました。初日はあつという間に過ぎてしまいました。当初緊張気味だった新入生たちも、夜には教員、上級生らと積極的にコミュニケーションをとる様子が見られました。

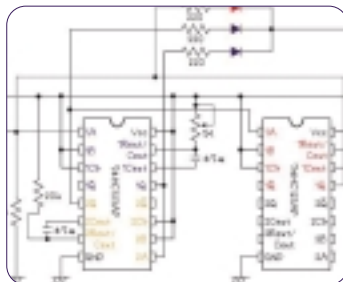
2日目は電気工作体験学習を実施し、電気電子情報工学の面白さ・難しさを体験・感動してもらいました。本年は、ロジックICを利用して「青・黄・赤」と設定した時間で変化する信号機を製作しました。残念ながら時間内に完成した人は数人程度でしたが、実際に自分たちの手で物を作る、貴重な体験ができたことでしょう。その後、近くのキャンプ場に移動し、カレー作り&はんごう炊飯で昼食となりました。午前中の電気工作体験学習とは違い、全員がカレーライスを美味しく?味わうことができました。当初の目的を達成した充実感&満腹感からか、ほぼ全員が夢心地のなか帰路に着きました。



●ドッジボール大会の様子



●「尻尾取りゲーム」でのインタビューの様子



●電気工作体験学習で製作した信号機とその回路図





平成17年度 体育祭レポート

☆新競技や趣向を凝らした演出が予想を上回る盛り上がり

●平成17年度体育祭実行委員長 鈴木亮佑(電子通信3年)

去る5月20日(金)5月21日(土)の2日間にわたり、武蔵工大恒例の体育祭が世田谷・横浜の両キャンパスで同時開催されました。実施された競技種目は全部で20。2日間で約3400人の学生がそれぞれの競技で熱い闘いを繰り広げました。

平成17年度 体育祭の総括

本年度の体育祭は2日間ともに快晴で、予定通り開催できた。昨年度の反省により、以前行われたことがある駅伝、ポートボールの復活、ビーチフラッグ、耐久腕立て伏せなど新競技を増やしたこともあり、体育祭の盛り上がりは例年に負けないものであった。しかし、競技を増やしたことで、運営面で体育会本部の人数の不足を招いたものの、体育会各部、体育会本部OBの先輩方のご協力により、大きな問題もなく運営していくことができた。

世田谷、横浜両キャンパスで約3400人と、昨年に比べ参加者が増え、全体として大盛況を遂げたと思う。特にメインイベントとして行った「耐久腕立て伏せ」については、意外なほどの盛り上がりを見せた。地味な競技ではあるものの、太鼓を使って演出をしたうえ、観客が多かったこともあり、予想以上であった。参加者の中には、感動した、またやってほしい、などとありがたい声もあったので、来年度も継続し行われていくことを期待している。

横浜キャンパスにおいては、例年同様、フットサルが人気を博し、世田谷キャンパスからも参加が多くあった。2日目についても3ON3、テニスを横浜で開催したことにより、参加者が多く盛況であった。横浜で体育祭に参加するにあたり、問題となるのが、やはり移動時間に関してである。同日に世田谷キャンパスの競技に参加すると横浜キャンパスの競技に参加できない、という声が多くあった。これについては、シャトルバスの増便や競技時間の調整をすることで、来年度は改善していったほしい。

今回の体育祭は、平成17年度体育会本部にとって初めての大仕事であり、競技の増加、新競技への挑戦、メインイベントの開催と、新しい事への挑戦を目標に行った。新しいものを作ること、心に残る思い出を作ることとは本学生において、大切な事であると思う。この体育祭を通じて、体育会本部役員を含め本学生が何かを感じて、自分にとってプラスになってくれたなら、それは光栄なことである。

体育研究室をはじめ、多くの先生方、事務局の方々、体育会本部OBの方々の多大なご協力のおかげで大きな事故や問題を起さずに無事終了することができ、本当に嬉しく思う。大きな規模の課外活動である体育祭を無事行えたことは、これからの体育会において大きな財産となるであろう。

●世田谷キャンパス【開催種目】

卓球／相撲／ソフトボール／テニス／駅伝／3ON3／腕相撲／PK合戦／ドッジボール／綱引き／キックベース／バレーボール／ポートボール／騎馬戦／リレー／ビーチフラッグ／耐久腕立て伏せ

●横浜キャンパス【開催種目】

長縄／フットサル／3ON3／バドミントン／テニス



第9回 MI-TECH横浜祭レポート

☆参加研究室の増加により、学園祭本来の学術的な面をアピール

●平成17年度MI-TECH横浜祭運営委員会委員長 上林眞也(情報メディア3年)

平成17年6月4日(土)・5日(日)の2日間にわたり、武蔵工業大学横浜キャンパスにて第9回MI-TECH横浜祭を開催いたしました。環境にやさしい学園祭・地域に密着した学園祭として今年も多くの方に来場していただきました。



昨年の8月から組織作りが始まり、準備も同じ時期に始まりました。自分たちの活動は広報活動や企画の立案、管理計画など多岐にわたります。

準備段階で一番苦労したことは学術的なものを以前よりもっと前面に押し出すことです。今までは研究室参加が多くはなく、この大学で何を学んでいるのかを表現しきれていませんでした。しかし、今年は研究室開放の数も増え、4号館(食堂棟)で環境情報学科学学生会の協力のもと行った研究室展示にもたくさんの研究室に参加をしていただきました。このほかにも各研究室等の協力のもと、企画などを通じて、皆様に大学の中身をより多く見ていただけたと思います。

このように参加研究室の増加もひとつの成果でありますし、これによって学内生の横浜祭への参加者が増えたこともまた成果だ

と思います。

当日は1日目の夕方から雨が降り始め、その日のステージ最後の企画である中夜祭が体育館での催しとなってしまいました。2日目は天候に恵まれ大いに盛り上がりました。特に体育館で行ったお笑いライブは大盛況でした。当日チケットも即完売となり、急遽立見席も増設したほどでした。そのほかの企画も盛況のうちに終わることができました。

今年度は『道'05(ロード)』というテーマのもと横浜祭を開催しました。過去の道に続けて今年の道を創り、そして来年へと続くような道を築けたと思います。横浜祭は自分たちだけでは不可能であり、たくさんの方々の協力があってこそ開催することができました。この場を借りてご指導ご鞭撻いただきました教職員や関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

企画内容

- 6/4(土) ●Miss&Mr.Contest候補者お披露目 ●クイズ ●リサイクリング ●ダンスパーティー ●パネルディスカッション ●フリーマーケット
●神輿 ●フットサル大会 ●ビンゴ ●スタンプロード ●研究室発表・展示 ●クラブ発表・展示 ●中夜祭
6/5(日) ●お笑いライブ ●吹奏楽団演奏会 ●椅子取り ●演武会 ●音楽LIVE ●ダンスパーティー ●フリーマーケット ●学生プロレス
●フットサル大会 ●スタンプロード ●研究室発表・展示 ●クラブ発表・展示 ●後夜祭

✧平成17年度✧「大学と父母との連絡会」のお知らせ

全国26ヶ所
で開催

後援会と大学との共催により平成17年度「大学と父母との連絡会」を下記の26会場で開催します。大学側から教職員の方が出席され、教育方針や現況等について説明していただくと共に、在学する子女の修学および学生生活上の諸問題について懇談することを目的としております。奮ってご出席ください。

✧平成17年度「大学と父母との連絡会日程および会場」

開催地	開催日	時間	会場
札幌	9月10日(土)	受付開始 9:45 開 催 10:00~12:00	京王プラザホテル札幌 〒060-0005 札幌市中央区北5条西7丁目 (TEL 011-271-0111)
仙台	9月11日(日)	受付開始 9:45 開 催 10:00~12:00	ホテル仙台プラザ 〒980-0014 仙台市青葉区本町2-20-1 (TEL 022-262-7111)
秋田	9月10日(土)	受付開始 9:45 開 催 10:00~12:00	アキタパークホテル 〒010-0823 秋田市山王4-5-10 (TEL 018-862-1515)
郡山	9月 3日(土)	受付開始 9:45 開 催 10:00~12:00	ホテルハマツ 〒963-8578 郡山市虎丸町3-18 (TEL 024-935-1111)
宇都宮	9月 4日(日)	受付開始 9:45 開 催 10:00~12:00	宇都宮グランドホテル 〒320-0826 栃木県宇都宮市西原町142 (TEL 028-635-2111)
水戸	9月 3日(土)	受付開始 9:45 開 催 10:00~12:00	三の丸ホテル 〒310-0011 水戸市三の丸2-1-1 (TEL 029-221-3011)
東京	10月 1日(土)	受付開始 11:00 開 催 12:15~15:30	武蔵工業大学 世田谷キャンパス 〒158-8557 東京都世田谷区玉堤1-28-1 (TEL 03-3703-3111)
横浜	10月 1日(土)	受付開始 10:00 開 催 10:30~14:00	武蔵工業大学 横浜キャンパス 〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西3-3-1 (TEL 045-910-2500)
高崎	9月 4日(日)	受付開始 9:45 開 催 10:00~12:00	ホテルメトロポリタン高崎 〒370-0849 高崎市八島町222 (TEL 027-325-3311)
新潟	9月 3日(土)	受付開始 9:45 開 催 10:00~12:00	ホテルイタリア軒 〒951-8061 新潟市西堀通7-1574 (TEL 025-224-5111)
甲府	9月 3日(土)	受付開始 9:45 開 催 10:00~12:00	ホテル談露館 〒400-0031 山梨県甲府市丸の内1-19-16 (TEL 055-237-1331)
長野	9月 4日(日)	受付開始 9:45 開 催 10:00~12:00	ホテル国際21 〒380-0838 長野市県町576 (TEL 026-234-1111)
松本	9月 3日(土)	受付開始 9:45 開 催 10:00~12:00	ウエストンホテル 〒390-0303 長野県松本市浅間温泉3-5-23 (TEL 0263-46-1711)
富山	9月11日(日)	受付開始 9:45 開 催 10:00~12:00	名鉄トヤマホテル 〒930-0004 富山市桜橋通り2-28 (TEL 076-431-2211)
金沢	9月10日(土)	受付開始 9:45 開 催 10:00~12:00	金沢都ホテル 〒920-0852 金沢市此花町6-10 (TEL 076-261-2111)
三島	9月10日(土)	受付開始 9:45 開 催 10:00~12:00	三島グランドホテル 〒411-0035 静岡県三島市大宮町3-18-33 (TEL 0559-75-4300)
静岡	9月11日(日)	受付開始 9:45 開 催 10:00~12:00	静岡グランドホテル中島屋 〒420-0852 静岡市紺屋町3-10 (TEL 054-253-1155)
浜松	9月10日(土)	受付開始 9:45 開 催 10:00~12:00	オークラアクトシティホテル浜松 〒430-7733 浜松市板屋町111-2 (TEL 053-459-0111)
名古屋	9月11日(日)	受付開始 9:45 開 催 10:00~12:00	名古屋国際ホテル 〒460-0003 名古屋市中区錦三丁目23-3 (TEL 052-961-3111)
大阪	9月11日(日)	受付開始 9:45 開 催 10:00~12:00	大阪東急イン 〒530-0027 大阪府大阪市北区堂山町2-1 (TEL 06-6315-0109)
広島	9月10日(土)	受付開始 9:45 開 催 10:00~12:00	リーガロイヤルホテル広島 〒730-0011 広島市中区基町6-78 (TEL 082-502-1121)
高松	9月 4日(日)	受付開始 9:45 開 催 10:00~12:00	全日空ホテルクレメント高松 〒760-0011 香川県高松市浜ノ町1-1 (TEL 087-811-1111)
松山	9月 3日(土)	受付開始 9:45 開 催 10:00~12:00	チサンホテル松山 〒790-0811 愛媛県松山市本町2-5-5 (TEL 089-943-1011)
福岡	9月11日(日)	受付開始 9:45 開 催 10:00~12:00	ホテル日航福岡 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前2-18-25 (TEL 092-482-1117)
大分	9月10日(土)	受付開始 9:45 開 催 10:00~12:00	大分第一ホテル 〒870-0021 大分県大分市府内町1-1-1 (TEL 097-536-1388)
那覇	7月16日(土)	受付開始 9:45 開 催 10:00~12:00	ホテル西武オリオン 〒902-0067 那覇市安里1-2-21 (TEL 098-866-5533)